# 瑞穂市のごみ処理における課題と施策

資料２

## 現状の課題

**可燃ごみ**

◆家庭系可燃ごみが減っていない。
◆可燃ごみの収集回数が週3回と他自治体と比較して多い。
◆プラスチック製容器包装を可燃ごみに出している人が3割。

**資源ごみ**

◆プラスチック製容器包装の収集回数が統一されていない。
◆資源ごみの収集回数が月1回と他自治体と比較して少ない。
◆市の把握しきれない資源（古紙等）が増加。

**ごみ処理**

◆ごみステーションが遠い・狭い。
◆粗大ごみの出し方に困ったことがある人が4割以上。
◆金属類の無料回収利用が2割。
◆美来の森の開場日数・時間が短い。
◆3施設の認知度が大きく異なる。

**事業系ごみ**

◆事業系ごみの排出量が横ばい。
◆多量排出事業者に対する指導がされていない。

## 方向性

◎可燃ごみ中の資源ごみを削減。

◎資源を分別しやすい環境づくり。

◎適正処理の推進。

◎処理体制の効率化。

## 施策

◇可燃ごみの収集回数。 3回→2回
◇資源ごみ収集回数増加。
◇粗大ごみ→美来の森
資源ごみ→巣南集積場、中央エコセンター
◇持込施設の開場日・時間増加。

↓

◇空き容器回収機、拠点回収の見直し。

◇粗大ごみ区分の見直し（小型家電、陶磁器・ガラス類）。

◇集団回収の促進。
◇民間ルートの古紙等回収量把握の継続。

◇多量排出事業所への指導。
（事業系ごみの実態調査等。）

◇ステーションの見直し。
◇ふれあい収集の検討。